



少子対策本部を設置

市の重点施策として少子対策に取り組む



▲推進本部会議で少子対策の必要を述べる中田市長（中央）

南あわじ市は一月十五日、少子対策の総合的な推進を図るため「南あわじ市少子対策推進本部」を設置しました。同本部は、市の重点施策のひとつとして少子対策を位置づけ、広範囲に行われている対策について担当部署の連絡調整を図り、効果的に進めるのが目的。本部長に中田勝久市長、副本部長に川野四朗助役、本部長に収入役、教育長及び部長級職員九人が就任しました。

この日行われた会議では、各部での少子対策が報告され、新たな担当部署の設置について意見が交わされました。担当部署では既存事業の統廃合、出合いの機会創出、子育て支援、市民フォーラム開催などについて検討します。中田市長は、「少子対策に完全な策はない。今までの施策から少し踏み出してでも、斬新でユニークな案を出してもらいたい」と期待を込めました。

三原ライオンズクラブが法被を寄贈

きららとウインズに60着

三原ライオンズクラブ（豊田実会長）から、南あわじ市知的障害者通所授産施設「ウインズ」と同精神障害者小規模通所授産施設「きらら」へ、イベント用の法被六十着が寄贈されました。

一月五日、きららで贈呈式が行われ、豊田実会長から「同じ法被を着て、一致団結して



▲法被を着せる豊田実会長（中央）

女性消防団員2人に辞令交付

南あわじ市消防団初出式



▲真野団長から辞令を受ける女性消防団員の村野さん

消防団員の士気の高揚と、市民の防火意識の普及啓発を図るため、一月七日、年始恒例の南あわじ市消防団（真野和典団長）の初出式が三原健康広場グラウンドで行われ、市内から五十九分団、千五十二人が参加しました。式典では指揮官の号令を合図に、消防車両四十三台による機動隊入場と団員による行列行進に続き、真野団長からの訓辞や消防功労者表彰などが行われました。中田市長からは「市民の期待に応えられるよう頑張ってください」と団員を激励しました。

このたび初めて、女性団員として、村野貴美さん（賀集）と青石晴菜さん（沼島）が入団し、辞令が交付されました。村野さんは「今日の日が待ち遠しかった。地元の消防団のポンプ操法のきびきびした動きと団員の姿勢に感動し、自分も消防団活動をやりたいと思った」と入団の動機を話しました。消防団では、現在も女性団員を募集中。市民への防火・防火意識の普及などを中心に活動します。お問い合わせは、防災課（☎43・5006）まで。

災害時、自販機が飲料と情報を提供

飲料水メーカーから支援

大規模災害時に備え、近畿コカ・コーラボトリングと南あわじ市では飲料水の無償提供の協定を十二月二十一日締結し、災害対応型自動販売機を五庁舎に設置しました。自販機は、各庁舎の一階ロビーに設置され、大規模災害発生時には防災課のパソコン操作により、一台あたり約五百本の飲料が避難者救護用として無償提供されます。自販機上部の電光掲示板には文

字情報を表示することができ、また、同社の洲本支店（倭文）に保有する飲料も県を通じ、無償で提供されます。この日の調印式には、中田勝久市長と同社の網塚忠優常務執行役員らが出席。中田市長は「災害時には、民間の方の支援が支えになる」と感謝を述べ、網塚常務からも「地域から愛される企業として社会的責任を果たしたい」と話されました。



▲文字情報が流れる災害対応型自動販売機を操作する中田市長（左）と網塚さん

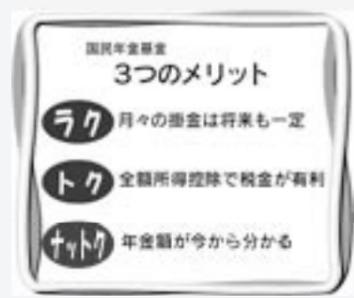
年金だより 国民年金基金に加入しませんか

国民年金基金は、自営業の方などがサラリーマン並の年金を受け取れるようにするための公的な年金制度です。自分の収入にあわせて設計でき、将来受けとる年金を確実に増やすことができます。ゆとりある老後を送るためにも、国民年金基金制度をぜひご活用ください。

どんな人が加入できるの？

国民年金基金は国民年金の第1号被保険者（自営業の方やフリーで働く方、およびその配偶者の方）の保険料を納めている方で、20歳以上60歳未満の方が加入することができます。全額免除、一部免除、学生納付特例および若年者納付猶予を受けられている方は対象となりません。

国民年金基金の3つの利点
（ラク・トク・ナットク）
【ラク】 ↓国民年金基金の掛金は、将来も一定です。加入後も月々の掛金を増減することもできます。
【トク】 ↓掛金は、全額所得控除で税金が有利。
【ナットク】 ↓加入したときに将来受け取れる年金額が分かかります。



ふれあい市長室 職員の知識と知恵で健全な市政を!!

南あわじ市長 中田勝久

一月四日、合併して初めて全職員を市文化体育館に招集し、平成十九年仕事始式を行いました。言うまでもなく、南あわじ市を夢と希望の持てるまちにするためには、公僕である市役所職員の役割と責任は極めて大きなものがあります。住民福祉の増進を図ることを基本として、地域における行政を自主的かつ総合的に行うための下支えをしなればなりません。時には市民と激論を交わすことも必要です。特に災害時の対応能力が強く求められております。

今後ともともに市役所職員が一体となって南あわじ市のために懸命に汗をかくことを確認し次の訓示を行いました。一つは、税金を財源に各事業推進をしているプロとして誇りと自信を持ち、市民に安心感を与える仕事をする。一つは、市民と共に迅速且つ適切な仕事をするためには、報告・連絡・相談のいわゆる「報連相」をきっちり守る。一つは、あらゆる難局にお

いて最終は人の力がすべてであり、人の気持ちの持ち方によって左右される。「頭の知識から内的な知恵」に発展させ、積極的な感性をもって前向きに明るく行動することが重要である。一つは、この世に生を受けた以上、自分が納得のいく生き方をすべきである。大きな目標や夢を持つことも大切だが、ささいなことでも「一日一善」を心がけ、例えばゴミ拾いやあいさつ、ありがとうと感謝することが職場環境や市民とのふれあいの中で人間関係を大きく改善されていくことが期待できる。

その後答辞として、藤本総務部長が職員を代表して、激動の時代、行政経営において職員が自ら努力して意識改革と綱紀粛正に取り組んでいくと応えてくれました。市民の皆様におかれましては、市役所職員に対し叱咤激励していただき、共に良きふるさとづくりのため頑張りますように。